

市民ネットワーク活動の拠点施設としてのミュージアム

大阪市立自然史博物館長 山 西 良 平

Museums as bases of network activities by townspeople. Ryohei Yamanishi (*Osaka Museum of Natural History*)

「大阪湾見守りネット」は過去4回「大阪湾フォーラム」を開催してきたわけですが、開催地を顧みますと、それぞれの機会においてミュージアム施設が関わり、サポートをしてきたということがよくわかります。

- 過去4年間の「大阪湾フォーラム」の開催地
- 第1回(2005年2月) 大阪市立自然史博物館
- 第2回(2006年2月) 神戸市立須磨海浜水族園
- 第3回(2007年3月) きしわだ自然資料館・岸和田市立公民館
- 第4回(2008年3月) 西宮市貝類館、西宮浜産業交流会館、菊池貝類館
- 第5回(2009年) 海遊館(予定)
- ※2006年度 大阪湾見守りネット総会は貝塚市立自然遊学館

そうなりますと、当然、それぞれのミュージアムの関係者がその事業に関わって、コーディネートさせていただいたり、実行委員になったりして参画するということになります。そのような中でミュージアムの機能がどういう役割を果たしているかといいますと、第1に、ミュージアムはそれぞれの施設、ハードを持っていますから、会場として使っていただくあるいは展示も見学していただくという形で施設の活用ということが挙げられます。次にそこには学芸員がいますから先ほど申し上げたようなコーディネートといった形で参画

しますし、専門性を発揮してお手伝いできる場合もあります。さらにミュージアムには利用者による友の会やサークルがさまざまありますから、開催を機会にそれらとのつながりや連携が深まるという成果も見逃せません。それからミュージアムは標本やデータの集積の場としても活用できるということも重要です。このことはたとえば今年の大阪湾生き物一斉調査のときに、同定のサポートをする、あるいは残すべきものは標本として保管するという形で貢献し、存在意義を示すことができたと思っています。このように、ミュージアムはこれから大阪湾での市民ネットワーク活動を推進していく上で大きな貢献をすることができるのではないかと考えているところです。

見渡してみますと大阪湾にはすでにフォーラムの開催地となった上記の施設をはじめ、南港野鳥園、みさき公園があり、さらに私から見ますと淡路島由良の成ヶ島も、建物こそありませんがすばらしいフィールドと自然探求・保全活動に取り組まれている地元の方々によってミュージアムが形成されようとしている所です。このように大阪湾を囲んで要所要所にミュージアムがあり、活動をしているわけです。そこでこのようなミュージアムどうしのネットワークということが考えられます。とりあえず大阪湾見守りネットの中で活動している学芸員どうしがネットワークを作っていく、



図1. 大阪湾岸ミュージアムネット構想.

たとえば「大阪湾岸ミュージアムネット」あるいは「環大阪湾ミュージアムネット」でもよいとも判りませんが，そういったこともこれからの取り組みの中で考えていきたい，また皆様方の視野に入れていただければと思います。